

《専門科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

《テキスト》

坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編著「学校教育制度概論〔第二版〕」玉川大学出版部 2017

《参考図書》

参考資料としてプリントを使用する。

《授業の到達目標》

- 学校を巡る近年の様々な状況の変化を説明できる。
- 近年の教育政策の動向を述べることができる。
- 公教育の原理及び理念を説明できる。
- 学校経営の望むべき姿を説明できる。
- 学級経営の仕組みと効果的な方法を説明できる。
- 学校と地域の連携について説明できる。
- 学校安全への対応について説明できる。

《授業時間外学習》

- 準備学習としてテキストを予め読み、事後学習として専門用語についての理解を深めておく。予習、復習（概ね3時間）の自己学習が望ましい。
- 課題についてレポートを作成する。

《成績評価の方法》

定期試験40%、レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎授業時に実施する課題レポートは、適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度と教育改革	国家・社会の変化と教育改革 準備学習：予めテキストのP.12～18を読んでおくこと。
2	今日の教育改革	行財政改革と教育改革 準備学習：予めテキストのP.19～26を読んでおくこと。
3	学校教育制度の基本原則	学校体系と就学前教育制度 準備学習：予めテキストのP.28～40を読んでおくこと。
4	教育政策の動向	近年の教育政策の動向[調べ学習、グループ協議] 準備学習：予め国が示す教育現場における新たな取り組みについて調べておくこと。
5	初等・前期中等教育制度	初等教育制度と前期中等教育制度の基本原則 準備学習：予めテキストのP.41～54を読んでおくこと。
6	後期中等・高等教育制度	後期中等教育制度、特別支援教育制度と高等教育制度の基本原則 準備学習：予めテキストのP.54～75を読んでおくこと。
7	教育行政の実際（1）	中央教育行政と教科書制度 準備学習：予めテキストのP.84～100を読んでおくこと。
8	教育行政の実際（2）	地方教育行政と教育委員会 準備学習：予めテキストのP.102～116を読んでおくこと。
9	学校経営	学校経営の組織と運営 準備学習：予めテキストのP.118～130を読んでおくこと。
10	学校評価	学校の質保証と学校参画 準備学習：予めテキストのP.132～146を読んでおくこと。
11	選抜システム	選抜システムとしての学校制度 準備学習：予めテキストのP.148～164を読んでおくこと。
12	学校教育の新たな課題（1）	教育政策の国際化 準備学習：予めテキストのP.166～182を読んでおくこと。
13	学校教育の新たな課題（2）	学校の安心・安全と未来への準備 準備学習：予めテキストのP.184～196を読んでおくこと。
14	災害、事故と学校安全	学校の管理下で起こる災害、事件、事故の実情と学校安全 準備学習：予めテキストのP.196～201を読んでおくこと。
15	学校教育の現在と未来	新たな時代における学校像[グループ協議] 準備学習：予めテキストのP.238～253を読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大野 智子、齋藤 亜希子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

子どもの健全な発育・発達に欠かせない乳幼児期の適切な栄養摂取の方法や食生活についてを学ぶ。  
 具体的には、基本的な栄養学の知識を身に付けた上で、子どもの栄養の重要性や発育・発達、成長に応じた栄養の必要性を知る。また、子どもに多い疾患やその際の食事管理や必要な食事の取り方などの基本を理解する。さらに、子どもや保護者に食の大切さを伝える視覚媒体の作成や調理実習も行う。

《授業の到達目標》

栄養素の基本が理解できる。  
 育児用粉乳の衛生的で安全な取り扱い、正しく調乳できる。  
 離乳食について理解し、進め方について正しく伝えられる。  
 乳幼児期の栄養の特性や、年齢に応じた食生活を理解する。  
 食事のマナーや作法を理解し子どもに正しく伝えられる。  
 衛生面に配慮し、安全に食育活動を行うことができる。  
 年間行事と行事食を理解し、保育に生かすことができる。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度・出席状況（40%）、ノート・課題・レポート・媒体作成（40%）、確認試験（20%）を行い総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ・子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本 編著：太田百合子、堤ちはる 羊土社
- ・新ビジュアル食品成分表「新訂第二版」大修館書店

《参考図書》

- 「食育実践ハンドブック」明日の授業で生かせるアイデア70 三省堂
- 子育て・子育てを支援する「子どもの食と栄養」萌文書林
- 楽しくわかる「栄養学」 羊土社
- 「栄養の基本がわかる図解事典」栄養用語がまるわかり！ 成美堂出版

《授業時間外学習》

ノートは各回ごとに回数、月日を記入し講義・実習内容を見やすく、わかりやすくまとめること。  
 必ず自書で作成する。  
 あらかじめ示されたページを予習しておくこと。  
 出された課題は、期日までに作成すること。

《課題に対するフィードバック等》

実習時は身支度を整え、エプロン・三角巾・名札・指定靴を着用し着席。髪は束ね、爪は短く切り、マニキュア・つけ爪はせず、装飾品は全て外し、安全面、衛生面に十分注意し臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	健康な食生活を知り、望ましい食生活について学ぶ。 子どもの食生活の現状を知り、その課題について理解する。
2	栄養に関する基礎知識	三大栄養素、五大栄養素について学ぶ。 消化吸収の仕組みを知る。
3	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と働きについて学ぶ。について理解する。糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水分の働きを知る。
4	栄養に関する制度	「日本人の食事摂取基準」について理解する。アトウォーターエネルギー換算係数、PFC比率、食塩換算係数、BMIについて理解する。
5	献立作成と調理の基本 食中毒予防と衛生管理	食事バランスガイドを使ってバランスの取れた献立作成と調理の基本を知る。盛り付けや切り方などの調理の工夫を理解する。食中毒の原因や予防方法を学ぶ。
6	妊娠期と授乳期の特徴と食生活	妊娠のメカニズムを知り、妊娠期における正しい食生活を理解する。母乳栄養の利点を知り、を使って妊娠期の適正体重を算出できる。
7	乳児期の食生活と栄養（実習）	調乳（無菌操作・終末殺菌法）を理解し、調乳に必要な器具や備品を衛生面に配慮しながら調乳・洗浄ができる。離乳期の区分を理解し、各期における調理形態を学ぶ。
8	乳児期の食生活と栄養 食育の基本と内容	授乳から離乳食への移行のタイミングや離乳食の役割を理解する。また、離乳食の進め方を理解する。乳幼児期の食育の基本を理解する。
9	幼児期の栄養（実習）	幼児期に必要な栄養素を知り、バランスの良い食事を作ることができる。正しい食事の姿勢や食具の使い方を知る。年齢に合ったお弁当箱に、安全で衛生的な詰め方を知る。
10	幼児期の栄養（実習） 間食の意義と目的	子どもにとって、間食（おやつ）の意義と役割、必要性を理解し、望ましい間食（おやつ）の食品や分量などを知る。
11	学童期・思春期の発育・発達と食生活	この時期は、心と体の成長・発達ばかりでなく、成人期以降の健康状態にも影響することを理解する。学校における食育についても知る。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	乳幼児期に多い疾病と症状を理解し、疾病に応じたコントロール食や食事の配慮の仕方を理解する。食物アレルギーについて理解し、配慮する点を学ぶ。
13	児童福祉施設における食事と栄養	保育所やその他の児童福祉施設の特徴と食生活の基本を知る。障害のある子どもの摂食機能と食事指導を理解する。
14	行事と食について（媒体発表）	それぞれのテーマに基づき作成した、行事と食についての媒体を発表する。
15	前回の続き	前回の続き

《専門科目》

科目名	健康領域指導法				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に則り、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養える保育・援助の方法について以下を中心にグループワークや模擬保育、実技を通して実践的に学ぶ。

遊びを中心とした保育と健康のねらい 動作の観察と評価  
運動遊びの実践 安全管理と安全指導

《授業の到達目標》

幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育を構想できる。領域「健康」の特性を考慮した情報機器及び教材の活用ができる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（30%）発表（30%）授業後に提出する小レポート（20%）最終課題（20%）で評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

○吉田伊津美 他編著：保育内容 健康 光生館 2018  
○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》

○池田裕恵編著：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018 ○河邊貴子 他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020 ○岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび 2018 第二版 萌文書林 2018 ○小櫃智子：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社 2017 ○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い、授業に臨むこと。復習として、授業で学んだことをノートにまとめておくこと（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業後に提出する小レポートは、コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者の役割	領域「健康」の指導における保育者の役割について考える [準備学習]テキストのP76-P88を事前に読んでおく
2	領域「健康」にかかわる絵本	領域「健康」にかかわる絵本の活用の仕方を考える [準備学習]領域「健康」にかかわる絵本を選んでおく
3	領域「健康」に関する絵本の読み聞かせ	模擬保育 「健康」に関する絵本の読み聞かせ等の実践、相互評価（グループワーク） [準備学習]読み聞かせするにふさわしい絵本を事前に選び、読んでおく
4	反省と改善方法の検討	模擬保育 反省と改善方法の検討（グループワーク） [準備学習]前回の評価をふまえ、どのように改善工夫すべきか考えておく
5	指導案の立案	領域「健康」をテーマとした指導案の作成（グループワーク） [準備学習]「実習パーフェクトガイド」などの参考図書の指導案例を事前に読んでおく
6	指導案に基づく準備	模擬保育に向けての教材研究（グループワーク） [準備学習]テキストの模擬保育に関する箇所を読んでおくこと。加えて、必要な教材を準備しておく
7	指導案に基づく模擬保育と評価（1）食育	食育にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
8	指導案に基づく模擬保育と評価（2）生活習慣	生活習慣にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
9	指導案に基づく模擬保育と評価（3）安全	安全にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
10	指導案に基づく模擬保育と評価（4）健康	健康にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
11	指導案に基づく模擬保育と評価（5）運動遊び	運動遊びにかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
12	指導案の評価と改善	模擬保育の評価をもとに指導案を修正（グループワーク） [準備学習]模擬保育を振り返り、評価しておく
13	保育に生かす安全マップ（1）準備	安全マップ作成に向けての準備（グループワーク） [準備学習]テキストやこれまでのノート等の子どもの安全に関わる箇所を事前に読んでおく
14	保育に生かす安全マップ（2）作成	安全マップの作成（グループワーク） [準備学習]安全マップのレイアウトを考えておく
15	保育に生かす安全マップ（3）発表	安全マップの発表（グループワーク） [準備学習]作成した安全マップを紹介できるように準備しておく

《専門科目》

科目名	環境領域指導法				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本授業では、発表や討議を通して、幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくことができるための指導力を身につけることを目指す。具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けるため、指導計画の作成と模擬保育を行う。加えて、保育者として必要なコミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル等を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。
- (2) 領域の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材及び情報機器の活用法を習得し、保育の構想に活用できる。
- (3) 具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- (4) 保育を改善する視点を身に付け、現代的課題や保育実践の動向を踏まえた保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

全体で100%とし、「定期試験における筆記試験50%」、「レポート（学習指導案を含む）40%」、「学修に対する関心・意欲・態度10%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省、フレーベル館
- ・保育所保育指針解説 厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

- ・「幼稚園教育要領ハンドブック」武藤隆監修、学研
- ・「保育所保育指針ハンドブック」汐見稔幸監修、学研
- ・事例で学ぶ保育内容 領域「環境」新訂 無藤隆監修、紀伊國屋書店
- ・埼玉県「参考となる学習指導案集」www.pref.saitama.lg.jp/g2204/sidouan-you.html

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・時間外学習は、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索し、まとめてくる。
- ・事後学習として学修を振り返り理解を深めておく。

《課題に対するフィードバック等》

「環境領域指導法」についての学びを振り返るため、毎授業回学習履歴表を作成する。提出された学習履歴表は、翌週以降コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	領域「環境」の構想の視点及び指導	環境の学びを構想する視点、幼児の見方・考え方を踏まえた指導 〔時間外学習〕幼児の体験や発達を理解するために必要な教師の視点をまとめてくる。
2	領域「環境」の指導方法と学習理論	領域「環境」の指導方法を学習理論から学ぶ。 〔時間外学習〕幼児の見方・考え方の事例についてまとめてくる。
3	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」の構想	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」での学びを検討する。 〔時間外学習〕保育「環境」の指導の事例についてまとめてくる。
4	指導案・日案の立案、環境構成と評価	指導案・日案の立案、環境構成、評価の考え方 〔時間外学習〕「環境」の学習指導案（日案）を収集してくる。
5	保育構想と教材・情報機器の活用①自然に触れる	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く（グループ討議） 〔時間外学習〕自然と調節触れ合う機会や体験を収集してくる。（内容：1）
6	保育構想と教材・情報機器の活用 物に触れる	物の性質や仕組みに興味や関心をもたせ、大切に保育構想と実践（討議） 〔時間外学習〕物や道具に関して遊ぶ指導方法を収集してくる。（内容：2・7・8）
7	保育構想と教材・情報機器の活用 自然や季節	季節による自然や人間生活の変化の指導（グループ討議）（内容：3・4） 〔時間外学習〕自然とのかかわりや事象を取り入れて遊ぶ指導方法を収集してくる。
8	保育構想と教材・情報機器の活用 生命の尊重	動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付いたわる保育構想と実践（討議） 〔時間外学習〕飼育・栽培等、生命を大切に保育指導方法を収集してくる。内容：5）
9	保育構想と教材・情報機器の活用 文化や伝統	様々な文化や伝統に親しみ、社会とのつながり等を持たせる保育構想と（討議） 〔時間外学習〕伝統的行事、わらべうた、遊び等の指導方法を収集してくる。
10	保育構想と教材・情報機器の活用 数量や図形	数量や図形などに関心を持たせる保育構想・模擬保育の実践（グループ討議） 〔時間外学習〕数量や図形に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。
11	保育構想と教材・情報機器の活用 標識や文字	標識や文字などに対する興味や関心を持たせる保育構想・模擬保育の実践（討議） 〔時間外学習〕標識や文字に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。
12	保育構想と教材・情報機器の活用 情報や施設	情報や施設などに関心を持たせる保育構想・模擬保育の実践（グループ討議） 〔時間外学習〕情報や施設に興味・関心を持たせる指導方法を収集する。（内容：11）
13	保育構想と教材・情報機器の活用 国旗に親しむ	国旗に親しみ国際理解の意識の芽生えを育成する模擬保育の実践（グループ討議） 〔時間外学習〕国旗に接する機会や方法を検討してくる。（内容：12）
14	領域「環境」の指導を改善する視点	模擬保育の振り返りと領域「環境」を改善する視点（グループ討議） 〔時間外学習〕保育の場での事故、予防と対処法をまとめてくる。
15	保育実践の動向と保育構想	領域「環境」に関わる現代的課題や保育実践の動向と保育構想 〔時間外学習〕保育実践の課題や動向、保育構想についてまとめてくる。

《専門科目》

科目名	言葉領域指導法				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

幼児の言語発達の過程や特徴を理解し、経験や考えなどを自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする幼児の意欲や態度を育てるための保育のあり方を学ぶ。また言葉に対する感覚や表現する幼児の力を養うために、具体的指導技術を身に付ける。その際に、幼児の発達の特徴に即した主体的・対話的で深い学びが実現できる保育の構想を目指す。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい、内容、全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付ける言葉の特性や内容、またそのための指導方法や指導上の留意点、評価方法を知り、具体的な題材を通して実践することができる。様々な題材を通して、幼児の言葉の成長を支えることの具体的なポイントを説明することができる。

《成績評価の方法》

作品提出及び発表70%、小レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	紙芝居 (1) 紙芝居の歴史	伝統文化の側面も含めた紙芝居の歴史を理解すること 〔時間外学習〕図書館で実際の紙芝居を手にとって、見ておくこと
2	紙芝居 (2) 発表・振り返り	紙芝居の演じ方を工夫し、子どもの言葉の発達との関係について考えること 〔時間外学習〕グループで選んだ紙芝居作品の発表の練習をしておくこと
3	手袋人形シアター(1) 製作の基本・構想	手袋人形の作り方、演じ方の基本について情報検索し、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕動画サイトで手袋人形シアターについて調べておくこと
4	手袋人形シアター(2) 製作	演じ方をイメージしながら、手袋人形を製作すること 〔時間外学習〕発表に向けて製作を進めておくこと
5	手袋人形シアター(3) 発表・振り返り	互いに発表し合い、手袋人形シアターと幼児の言語発達について考えること 〔時間外学習〕歌や言葉がけなどに注意しながら発表の練習をしておくこと
6	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(1) 素材調べ	しかけ絵本・赤ちゃん絵本について様々な情報を集め、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕ロバート・サブタのしかけ絵本について調べておくこと
7	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(2) 製作	子どもの発達段階を意識した作品の製作を進めること 〔時間外学習〕製作に必要な材料・道具を準備しておくこと
8	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(3) 仕上げ・練習	絵本作品を完成させ、効果的な読み聞かせについて工夫すること 〔時間外学習〕しかけ絵本の発表に向けて作業・練習を進めておくこと
9	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(4) 発表・振り返り	製作した絵本を発表・鑑賞して、子どもの言葉の発達との関係について考えること 〔時間外学習〕絵本を完成させて、発表の仕方を考え練習しておくこと
10	パネルシアター (1) しかけの理解	パネルシアターの様々なしかけを理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕パネルシアターについて基本的な知識を調べておくこと
11	パネルシアター (2) 製作	パネル絵の製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいパネルシアターの内容を考えておくこと
12	パネルシアター (3) 発表・振り返り	パネルシアターを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること 〔時間外学習〕パネル絵を仕上げ、発表に向けて練習しておくこと
13	ペープサート (1) 基本的技法の理解	ペープサートの基本的な知識について理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕ペープサートについて基本的な知識を調べておくこと
14	ペープサート (2) 製作	ペープサートパネルの製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいペープサートの内容を考えておくこと
15	ペープサート (3) 発表・振り返り	ペープサートを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること 〔時間外学習〕ペープサートパネルを仕上げ、練習しておくこと

《テキスト》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)  
「パネルシアター用Pペーパー並口」ひかりのくに

《参考図書》

「領域言葉」(第二版)村石昭三・関口準、編著(同文書院)  
「よくわかる言語発達」岩立志津夫・小椋たみ子編(ミネルヴァ書房、2005)

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針を精読した上で、文献・インターネット等を用いて自己学習する。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

小レポートは、コメントを付して返却し、全体で解説してフィードバックする。

《専門科目》

科目名	乳児保育				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

- ・乳児保育 で学んだ内容に基づき、乳児を育てる知識・技術を習得する。
- ・乳幼児の死亡事故の発生状況を理解し、事故を予防するための対策を学ぶ。
- ・乳幼児の保育を担当するために職員、保護者、地域、他機関などとの連携の重要性を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・保育士として必要な乳児保育の知識・技術を獲得し、安全で適切な環境を整えることができる。
- ・保育士として保護者への援助・職員との連携を学び配慮できる。

《成績評価の方法》

定期試験（70％）演習課題、授業への取り組み（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

志村聡子編著 「はじめて学ぶ 乳児保育」 同文書院  
「保育所保育指針と解説書」

《参考図書》

「乳児の発達と保育」エイデル研究所  
「保育を変える記録の書き方評価のしかた」今井和子 ひとなる書房

《授業時間外学習》

今回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行うことが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

不明点や疑問点について、講義内でフィードバックし、受講者の状況に応じて、授業を進めていく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	お手玉・手作りおもちゃの発表	夏休み課題のおもちゃの工夫した点・遊び方の発表準備 おもちゃの発表の練習
2	保育所保育指針について	乳児保育の保育所保育指針について 予習 教科書P36～61
3	母子健康手帳と予防接種について	母子健康手帳の概要、予防接種の知識と重要性 予習 自分の母子健康手帳を見る
4	健康と安全（1）	SIDS,SBS,保育所の薬の取り扱いについて 予習 教科書P162～165を読む
5	健康と安全（2）	日常生活における危険、不審者の侵入を防ぐ、人数確認の重要性 予習 教科書P166～170 読む
6	健康と安全（3）	保育所での死亡事故を防ぐ 予習 教科書P170～172 読む
7	乳児保育における複数担任制	職員の連携の重要性と複数担任としての配慮 予習 教科書P92～104 読む
8	家庭との連携（1）	保護者とのコミュニケーションの取り方・トラブルの対応（かみつき・ひっかき） 予習 教科書P160～161 読む
9	家庭との連携（2）	連絡帳の目的と書き方 連絡帳の記入 予習 教科書P174～176 読む
10	保育看護について	体調不良時の早期発見、対応の仕方、身体測定方法 予習 体調不良時の対応の仕方について調べる
11	乳児の養護と技術（1）	保育環境の衛生管理（保育室内外の衛生、吐物処理方法） 予習 教科書P158～159を読む
12	乳児の養護と技術（2）	抱っこ、おんぶ、おむつ交換の仕方、衣服の着脱 予習 教科書P130～143を読む
13	乳児の養護と技術（3）	沐浴、清拭の仕方 予習 教科書P154～157 読む
14	離乳食の基礎知識	離乳食の基礎、授乳離乳のガイドラインを知る 予習 教科書P148～153
15	授乳と調乳について	授乳の仕方と調乳方法について 予習 教科書P144～147

《専門科目》

科目名	特別支援保育				
担当者氏名	古橋 真紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育者は、障害や何らかの理由で困難を有する子どもの自立や社会参加に要する力を育むため、一人一人の実態把握に基づくきめ細やかな関わりが求められる。そのため本授業では、障害児保育の歴史を概観することから現在の障害理念や保育・教育形態の在り方について学ぶ。また、障害に関する基礎的知識を習得し、保育において必要な配慮や支援について理解し、特別支援保育の具体的な保育展開力や計画力習得につなげる。

《授業の到達目標》

障害児保育の歴史や障害に関連する制度の変遷から、障害とは何か考え、論じることができる。

各障害の定義と特性について説明することができる。

障害の特性に合わせた支援法や配慮、環境構成について論じることができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、課題等提出物20%、授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「障害」の理解	オリエンテーションを行った上で、「障害」とは何かについて学ぶ。 予習：教科書p9～12 復習：授業配布プリント
2	障害児保育の歴史	我が国における障害児保育の歴史の変遷について学ぶ。 予習：教科書p17～32 復習：授業配布プリント
3	障害児保育・教育を支える理念と形態	障害児保育・教育を支える理念と形態について学ぶ。 予習：教科書p33～40 復習：授業配布プリント
4	肢体不自由児、言語障害児の理解と保育	肢体不自由、言語障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p49～56 復習：授業配布プリント
5	視覚障害児の理解と保育	視覚障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p57～64 復習：授業配布プリント
6	聴覚障害児の理解と保育	聴覚障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p57～64 復習：授業配布プリント
7	知的障害児の理解と保育	知的障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p65～72 復習：授業配布プリント
8	病弱・身体虚弱児の理解と保育	病弱・身体虚弱について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書 復習：授業配布プリント
9	自閉症スペクトラム児の理解と保育	自閉症スペクトラム障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p74 復習：授業配布プリント
10	学習障害児の理解と保育	学習障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p76 復習：授業配布プリント
11	注意欠陥多動性障害児の理解と保育	注意欠陥多動性障害について学び、保育における必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p75 復習：授業配布プリント
12	その他特別なニーズのある子どもの理解と保育	障害以外の特別なニーズのある子どもについて知り、配慮や支援の必要性を知る。 予習：教科書 復習：授業配布プリント
13	インクルーシブ保育・教育の体制づくり	様々な子どもが共に学ぶための体制の概要について知る。 予習：教科書p84～88 復習：授業配布プリント
14	インクルーシブ保育・教育の体制づくり	子どもの実態把握・アセスメント、連携機関やその方法の概要について知る。 予習：教科書p97～112 復習：授業配布プリント
15	一人ひとりが大切にされる障害児保育の展開	子ども一人ひとりを大切にするために必要なことについてまとめる。 予習：教科書 復習：授業配布プリント

《テキスト》

青木豊編「コンパクト版保育者養成シリーズ 障害児保育」一藝社、2018

《参考図書》

「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館  
「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館  
「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

教科書や授業中配布するプリントを用いて、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。また、障害がテーマとなっているTV番組や映画等の映像、絵本や漫画、書籍について自ら探して参照し、特別な支援のある幼児・児童・生徒の実態や困難さ等の理解を深めましょう。

《課題に対するフィードバック等》

提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、根岸 恭子、平峯 章生、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲(バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ)と童謡(子どもの歌)の弾き歌いを、隔週で交互に学ぶ。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、

- ・童謡の弾き歌いを5曲以上習得することができる。
- ・参考図書 ~ より指定された1曲のピアノ曲を最後まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡の弾き歌いの合格数50%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:保育のピアノ基礎 の15週目に提示された童謡の弾き歌い発表 3・4班:保育のピアノ基礎 の15週目に提示されたピアノ曲及び2週目で発表する童謡
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:保育のピアノ基礎 の15週目に提示されたピアノ曲及び3週目で発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、5週目で発表する童謡 3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡 3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡 3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
13	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏・ピアノ曲の習得	1・2班:ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)及び演奏の振り返り 3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡
14	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏の習得	1・2班:15週目で発表する童謡 3・4班:ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)及び演奏の振り返り
15	童謡伴奏の習得、2年次における学び	童謡の弾き歌い発表、2年次での学修計画

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ! レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」  
三恵社

《参考図書》

(1)進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。

全訳バイエル 全音楽譜出版社  
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社  
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社

(2)入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業(個人レッスン)は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された次回の授業までの課題曲を、自己学習しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び13週目もしくは14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。



《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	伊東 一誉、古橋 真紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義・目的・内容の理解  
「保育実習」を円滑に進めるための知識・技術を習得と事前準備についての学習

実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化  
また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付ける。

子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト70%、最終レポート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017,わかば社、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015,わかば社

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017  
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017  
岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》

名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育実習にかかわる活動を自己学習の中で行う。  
また、教材研究、指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》

「保育実習」を履修するためには本授業を履修する必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の概要 保育実習の目的	保育実習指導の授業の進め方の確認 保育実習(保育所)の概要、目的、目標についての学習(ワークシート)
2	実習に向けての心構え・ 実習課題の明確化	保育士としての心構え・実習生として学ぶ姿勢 幼稚園実習を振り返りと保育実習での実習課題作成(ワークシート)
3	オリエンテーションの心 構え・書類作成、	オリエンテーションの電話のかけ方、オリエンテーションの受け方の注意の確認 誓約書・実習生調書の作成(ワークシート)
4	保育所保育指針について 日誌の概要の書き方	背景と趣旨、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)についての学習 園の概要や環境構成の書き方(ワークシート)
5	0歳児の発達と援助 名前の絵本の作り方	一対一関係の大切さ、安心・安全・愛情についての学習 名前の絵本制作(グループワーク・制作)
6	1歳児の発達と援助 指導案とは	探索活動が活発になる時期の自発的な発見や行動への共感についての学習 子どもの発達や一人ひとりの興味関心に合わせた指導案作成(ディスカッション)
7	2歳児の発達と援助 主活動とは	自我の芽生えの時期における保育者のかかわりについての学習 主活動の考え方(導入 展開 まとめ)(グループワーク)
8	3歳児の発達と援助 部分実習指導案の書き方	興味のある遊びの発見や他者とのかかわりを求める時期のかかわりについての学習 主活動のねらいと内容、時系列に沿った指導案の立案(ワークシート)
9	4歳児の発達と援助 環境構成について	生活の中にある発見と挑戦の連続から自制心を育成する時期についての学習 指導案に沿った環境構成の考察(ディスカッション)
10	5歳児の発達と援助	他者との関わりの広がり和社会性の構築時期についての学習 1~5歳児における指導案の比較とまとめ(ワークシート)
11	日誌の書き方	乳児クラスの一日の流れ(体験学習) 時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助についての学習(ワークシート)
12	エピソード記録・考察に ついて	子どもの生活や遊びの実際(体験学習) 子どもと保育者の両視点を捉える見方についての学習(グループワーク)
13	実習直前指導(提出物に ついて)	細菌検査についての学習 お礼状の書き方等、実習後の提出物についての確認(ワークシート)
14	提出物を見直す (指導案・一日の流れ)	返却された指導案・一日の流れの見直し 自己の課題や不明点の明確化(ディスカッション・ワークシート)
15	今後の実習課題の明確化	ワークシートの製本作業(制作) 本授業のまとめと今後の実習課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	伊東 一誉、古橋 真紀子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育士は保育所のみならず、児童福祉施設での保育士、障害者支援施設等における支援専門職としての活躍が求められる。そのため資格取得には、保育所での実習と保育所以外の福祉施設での実習が定められている。本科目では、保育実習（施設）に向け、その意義や目的を理解し、実習遂行のための基礎的な知識・技術について学ぶ。また、実習終了後、学びの振り返りを行い、今後の学修課題を明確化する。

《授業の到達目標》

施設の役割・機能を具体的に説明することができる。  
 個別の支援計画の意義を理解しそれを論ずることができる。  
 一人一人の状態に応じた関わりや支援の在り方を理解し、検討することができる。  
 施設保育士としての自らの実践の課題を明確にし、述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60％、グループワーク・発表20％、実習書類・ワークシート20％で評価する。  
 総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習（施設）の意義と目的、実習全体のプロセス 予習・復習：教科書と授業配布プリント
2	各施設の把握	養護系・障害系・育成系各施設名と対象児・者の理解 予習・復習：教科書と授業配布プリント
3	各施設の役割と概要	養護系施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童相談所一時保護施設）の法的位置づけとその役割 予習・復習：教科書と授業配布プリント
4	各施設の役割と概要	障害系施設（障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所）の法的位置づけとその役割 予習・復習：教科書と授業配布プリント
5	各施設の役割と概要	育成系施設（児童厚生施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）の法的位置づけとその役割 予習・復習：教科書と授業配布プリント
6	各施設の日課と特質	養護系施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童相談所一時保護施設）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
7	各施設の日課と特質	障害系施設（障害児入所施設、児童発達支援センター）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
8	各施設の日課と特質	障害系施設（障害者支援施設、障害福祉サービス事業所）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
9	各施設の日課と特質	育成系施設（児童厚生施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
10	実習関係書類の作成について	実習における実習施設や大学へ提出する書類の作成方法の学修 予習：教科書 復習：実習書類下書き作成
11	実習日誌の目的と作成方法	施設における日誌の特徴、観察実習における作成方法、部分実習・責任実習における計画書の作成方法 予習・復習：教科書と授業配布プリント
12	実習日誌の作成	映像視聴による観察記録作成 予習・復習：教科書と授業配布プリント
13	実習前試験・確認	施設における実習に関する知識、実習後の施設への提出物と提出・受取方法、大学への提出物、お礼状の書き方 予習：既習事項の振り返り 復習：試験結果の振り返り
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から見る自己課題の明確化：今後の学修計画の検討 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習施設の概要や機能・役割、施設保育士の業務内容とその役割、実習総括と自己評価のまとめと発表 予習：自己課題の明文化資料 復習：既習事項の振り返り

《テキスト》

大豆生田啓友他編「これからの時代の保育者養成・実習うガイド」中央法規、2020 古橋担当クラス  
 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会、2018

《授業時間外学習》

保育実習（施設）履修が必須となります。  
 実習までに、学修する全ての科目を振り返るようにしてください。実習終了後は、振り返りシートや自己評価票作成を行い、各自が実習を振り返り、2年次実習に向けて準備を進めてください。

《課題に対するフィードバック等》

現場では他職種連携のためにコミュニケーションが必須です。授業ではグループワーク等積極的に参加してください。教員は実習に臨む姿勢や様々な知識の統合や技術を支援します。

《専門科目》

科目名	保育実習（保育所）				
担当者氏名	伊東 一誉				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育所における実践活動への参加を通じた豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて学ぶ。

保育の現場を通じた乳幼児の理解  
保育所の機能やそこで働く保育士の職務に関する学習  
日常生活や遊びの経験による、保育に必要な知識と技能の習得

《授業の到達目標》

コミュニケーション能力、創造的表現力、論理的思考力、問題解決能力、保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。

保育に関する基本的知識について説明することができる。  
保育の現場にかかわる安全及び健康への配慮や倫理的配慮に関して説明することができる。

《成績評価の方法》

実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017  
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017

《授業時間外学習》

名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育の現場にかかわる活動を自己学習の中で行う。  
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》

専門科目の単位取得状況、保育実習指導（保育所）評価結果により、校外実習への参加の是非を決定する。保育所での実習は、1年次に10日間行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所理解	保育所における実習の目的と内容についての学習 実習施設の特徴と役割についての理解
2	デイリープログラム	保育所の状況と実習園についての理解 保育の現場における1日の流れについての学習
3	発達過程	乳幼児の発達の理解 発達過程に沿った生活の実際についての学習
4	乳幼児理解	乳幼児の生活を通じた保育者の関わりについての理解 生活や遊びへの参加を通じた保育の実際についての学習
5	保育技術の習得	乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） 生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
6	保育課程	保育課程の意義 保育の実態の理解（体験学習）
7	指導計画の概要	指導計画の理解 指導計画の事例研究（グループワーク）
8	指導計画立案	部分実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	協働	職員間の役割分担とチームワークの理解 組織的に行われる保育の実際についての学習
10	家庭・地域社会との連携	保育の現場における記録の目的と方法についての学習 保護者とのコミュニケーションに対する理解
11	保育方法	保育所保育指針にみる「子どもの最善の利益」についての理解 「子どもの最善の利益」を具現化する取り組みについての学習
12	倫理観	保育士の倫理観の理解 保育の現場における事例の研究（グループワーク）
13	安全・健康	安全・安心、健康的な環境づくり、疾病予防への配慮についての理解 日常環境の安全点検についての理解（グループワーク）
14	部分実習	部分実習の内容と実際についての理解 立案した指導計画に基づいた保育活動の学習
15	実習の振り返り・今後の課題	実習（保育所）における評価結果についての振り返り 実習経験の総括

《専門科目》

科目名	保育実習（施設）				
担当者氏名	古橋 真紀子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士は保育所のみならず、児童福祉施設での保育士、障害者支援施設等における支援専門職としての活躍が求められる。そのため資格取得には、保育所での実習と保育所以外の福祉施設での実習が定められている。本実習では、施設の役割・機能、利用・児者の理解と支援とその計画、職員間連携等について実践と記録に基づく省察を通し、保育実践力を高める。

《授業の到達目標》

施設の役割・機能について、体験を基に具体的な説明ができる。  
実際の支援から一人一人の支援計画を理解・把握することができる。  
一人一人の状態を踏まえた支援を考え実践できる。  
実習における観察・記録・省察を通して施設保育における実践を改善することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50%、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大豆生田啓友他編「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規,2020  
「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会,2018

《授業時間外学習》

保育実習指導（施設）履修が必須となります。  
実習までに、学修する全ての科目を振り返るようにしてください。実習終了後は、振り返りシートや自己評価票作成を行い、各自が実習を振り返り、2年次実習に向けて準備を進めてください。

《課題に対するフィードバック等》

実習先の評価と自身の評価を比較し、今後の学修に役立つようにします。また、実習中は訪問担当教員からの取組についてのフィードバックも行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	居住型施設・通所型施設等における実習の実施
2	施設の役割と機能 一日の流れの理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割と機能 施設の役割・機能の理解	実習での具体的な取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	利用児・者の理解 観察と記録を通じた理解	実習施設の利用児・者の観察と記録を通して、実際のくらしや活動といった実態を把握し、将来を見据えた支援について考察を深める
5	利用児・者の理解 個々の状態に応じた関わり	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術について理解を深める
6	計画に基づく活動や援助 ・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行して理解を深める
7	利用児・者の心身の状態 に応じた対応	日々の生活を通して健康状態や心理状態、疾病の状態は変化する。そのような状態に応じて施設職員はどのように関わっているのかを理解し、自らも実践する
8	利用児・者の活動と生活 の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解する
9	健康管理・安全対策 の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解し、実践する
10	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているかを実践を通して理解する
11	記録に基づく省察・自己 評価	実習日誌へ日々記録していくなかで、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深めることや支援の改善に努める
12	保育士・生活支援員の業務 内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどういった役割・業務内容を担っているか、観察や実践を通して理解する
13	職員間の役割分担と連携 についての理解	様々な専門職が配置されている施設において、各職員がどのような役割を担い、また利用児・者のためにどのような連携が行われているかを実習を通して理解を深める
14	保育士の役割と職業倫理 についての考察	施設実習を通して、社会福祉領域の専門職である「保育士」の役割とは、職業倫理とは何か、具体的な説明を試みる
15	施設実習の振り返りと自己 課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての自己評価及び今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	桐原 由美、倉澤 俊夫				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園における5日間の教育実習（観察実習）であり、幼稚園教諭二種免許状を取得するにあたり不可欠となるものである。実習生は、幼児の活動や教員の実践を観察し、保育活動に部分的に参加しながら、現場の保育者の指導を受け、将来教諭となるべく必要な知識を体験的に学ぶ。

《テキスト》

必要に応じて授業担当がプリント等を配布する。

《参考図書》

植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業の到達目標》

幼稚園教育について実践的な理解を深めることができる。  
 幼児の発達段階ごとの活動の実態や興味関心について幼児との関わりや観察を通して学ぶことができる。  
 幼児に接しその成長の援助を行うことに喜びを感じ、誠意をもって実習に取り組むことができる。

《授業時間外学習》

実習指導 の講義内容を再確認し、事前準備を十分に行うこと。  
 絵本、手遊びなどの基礎を学んでおくこと。

《成績評価の方法》

実習日誌45%、実習先評価50%、提出物5%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

実習日誌等の提出物は内容を確認した上で受領、返却を行う。  
 実習園からの指導について適時フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習（観察実習）	5日間の教育実習 幼稚園の役割、幼児の生活・遊びの様子、発達の理解・保育の援助・部分自習・適切な記録・考察
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	造形表現領域指導法				
担当者氏名	伊東 一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「保育の造形」で学んだ知識と技能を基に、子どもの豊かな表現を育成する造形活動の実践を、以下を中心に学ぶ。

乳幼児の発達段階、季節、行事を考慮した造形活動について造形活動の目的と内容に応じた指導案の作成について保育の現場を想定した具体的な指導技術についてまた、制作活動のほかに発表やグループ学習を行う。

《授業の到達目標》

乳幼児の発達段階に適した造形活動の内容を理解し説明することができる。

保育の現場（対象年齢、環境、季節、行事などの諸要素）を考慮した造形活動を提案することができる。

指導者の立場で活動の内容を計画し説明することができる。模擬保育での実践において、援助を工夫することができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題・小テスト60%、最終レポート40%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

宮地明子著『12か月の製作あそびアイデアBook』ナツメ社  
町田里美著『0・1・2歳児のかたん製作あそび12か月』ナツメ社  
榎英子『保育をひらく造形表現 第2版』萌文書林,2018

《授業時間外学習》

授業内で配する資料や参考図書等から、レポート内容の検討や教材研究・事前準備を行うこと。また授業時間内において完成できなかった作品等については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。

《課題に対するフィードバック等》

授業内における制作、小テスト、最終レポートを作成する課題を課す（授業内において、適宜、講評する）。また、図工セットなど制作に必要なものを毎回持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	造形活動の意義と位置づけ	「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」における造形表現の意義や位置づけの学習と制作の事例（ワークシート・グループ学習）
2	造形活動の指導（声かけ・対応）	造形活動事例の実践（制作・グループ学習）指導における声かけと多様な事例に対する対応（ワークシート）
3	造形活動の指導案作成	造形活動事例の実践（制作）指導案作成（ワークシート・プレゼンテーション）
4	造形活動事例（9～10月の制作）	9～10月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート）主題に応じた制作（例：運動会、月見、敬老の日など）
5	造形活動事例（10～11月の制作）	10～11月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート）主題に応じた制作（例：ハロウィン、芋掘り、遠足、読書など）
6	造形活動の指導と応用（保護者への対応）	造形活動事例の実践（制作）子どもの活動と保護者への対応（グループディスカッション・発表）
7	造形活動の指導（手順・説明）	造形活動事例の実践（制作・グループ学習）指導における手順と説明における工夫（ワークシート）
8	造形活動の指導案作成	造形活動事例の実践（制作）指導案作成（ワークシート・プレゼンテーション）
9	造形活動事例（12～1月の制作）	12～1月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート）主題に応じた制作（例：クリスマス、大晦日、年賀状、干支など）
10	造形活動事例（1～2月の制作）	1～2月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート）主題に応じた制作（例：書初め、節分、雪、梅など）
11	造形活動の指導と応用（障害児への対応）	障害児に対する造形活動事例の実践（制作）多様な子どもに対する対応の検討（グループディスカッション・発表）
12	造形活動事例（2～3月の制作）	2～3月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート）主題に応じた制作（例：バレンタインデー、ひな祭り、卒園式など）
13	造形活動の指導（準備と片付け）	造形活動事例の実践（制作・グループ活動）指導における準備と片付けに関する工夫（ワークシート）
14	模擬保育を想定した指導案の作成	第13回までの内容を見直し、各自の意欲と関心に即した計画の検討（ワークシート）模擬保育を想定した指導案を各自作成する。
15	指導案の製本と本授業の学習に対する振り返り	各自提出した指導案の製本作業・講評（制作・プレゼンテーション）本授業における学習の振り返りとまとめ（ワークシート）